

授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	理学（3年）・作業（3年）・言語（3年）・義肢（3年）・健康（4年）
志村 栄二 他		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：GI0】 一般市民が行うことのできる応急救護の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた応急救護法を実施できる。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 各疾患の救急対応法を理解できる。 2. 応急救護の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。 3. 気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。 4. 気道の確保について理解し、実施できる。 5. 効果的なCPRを実施できる。 6. 病气やけがに応じた対処法を理解し、実施できる。 7. AEDとその使用方法を理解し、CPRと組み合わせて実施できる。 8. 応急救護法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題				SB0 番号
1	オリエンテーション				
2	スポーツ現場での救急対応				1 講義
3	精神科救急とその対応				1 講義
4	内科的救急対応 1				1 講義
5	内科的救急対応2				1 講義
6	応急救護法とは				2 演習
7	蘇生の連鎖と感染の予防				2 演習
8	気道、呼吸、循環の初期の評価				3 演習
9	気道の確保				4 演習
10	CPR（心肺蘇生法）				5 演習
11	病气やけがに応じた対処法				6 演習
12	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護 1				7 演習
13	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護2				7 演習
14	知識の確認				8 演習
15	まとめ				8 演習
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		救急蘇生法の指針 市民用・解説編 改訂3版 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会（監修） へるす出版 2006・1,260円			
その他の資料					
【評価方法】			【履修上の留意点】		
出席状況、授業態度、筆記試験で総合的に評価する。			・30名程度のグループで行い、グループは前年度中に発表します。		